

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年11月17日(2011.11.17)

【公開番号】特開2009-132681(P2009-132681A)

【公開日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2009-024

【出願番号】特願2008-264385(P2008-264385)

【国際特許分類】

A 0 1 N 43/10 (2006.01)

A 0 1 N 43/40 (2006.01)

A 0 1 N 43/653 (2006.01)

A 0 1 N 43/54 (2006.01)

A 0 1 N 37/50 (2006.01)

A 0 1 N 43/28 (2006.01)

A 0 1 N 43/36 (2006.01)

A 0 1 N 35/04 (2006.01)

A 0 1 N 43/84 (2006.01)

A 0 1 N 57/10 (2006.01)

A 0 1 N 37/24 (2006.01)

A 0 1 N 43/42 (2006.01)

A 0 1 N 43/90 (2006.01)

A 0 1 N 39/02 (2006.01)

A 0 1 N 59/02 (2006.01)

A 0 1 N 43/16 (2006.01)

A 0 1 N 43/50 (2006.01)

A 0 1 N 47/04 (2006.01)

A 0 1 N 55/02 (2006.01)

A 0 1 N 37/34 (2006.01)

A 0 1 N 47/38 (2006.01)

A 0 1 N 47/34 (2006.01)

A 0 1 N 33/24 (2006.01)

A 0 1 N 59/20 (2006.01)

A 0 1 N 63/00 (2006.01)

A 0 1 N 47/44 (2006.01)

A 0 1 N 43/80 (2006.01)

A 0 1 N 47/24 (2006.01)

A 0 1 N 59/08 (2006.01)

A 0 1 N 57/14 (2006.01)

A 0 1 N 47/12 (2006.01)

A 0 1 N 37/26 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

【 F I 】

A 0 1 N 43/10 B

A 0 1 N 43/40 1 0 1 D

A 0 1 N 43/653 C

A 0 1 N 43/653 G

A 0 1 N 43/653 B

A 0 1 N 43/54 D

A 0 1 N 37/50

A 0 1 N	43/28	
A 0 1 N	43/36	A
A 0 1 N	35/04	
A 0 1 N	43/40	1 0 1 K
A 0 1 N	43/84	1 0 1
A 0 1 N	57/10	F
A 0 1 N	37/24	1 0 1
A 0 1 N	43/42	1 0 1
A 0 1 N	43/90	1 0 4
A 0 1 N	39/02	B
A 0 1 N	59/02	
A 0 1 N	43/16	A
A 0 1 N	43/50	M
A 0 1 N	43/54	A
A 0 1 N	47/04	1 0 1
A 0 1 N	43/40	1 0 1 J
A 0 1 N	55/02	G
A 0 1 N	37/34	1 0 4
A 0 1 N	43/36	C
A 0 1 N	47/38	B
A 0 1 N	47/34	A
A 0 1 N	33/24	1 0 1
A 0 1 N	59/20	Z
A 0 1 N	47/34	D
A 0 1 N	63/00	E
A 0 1 N	47/44	
A 0 1 N	43/50	K
A 0 1 N	43/80	1 0 1
A 0 1 N	47/24	G
A 0 1 N	59/08	Z
A 0 1 N	57/14	C
A 0 1 N	47/12	Z
A 0 1 N	47/12	1 0 2
A 0 1 N	37/26	
A 0 1 N	43/54	G
A 0 1 N	43/90	1 0 6
A 0 1 N	43/40	1 0 1 B
A 0 1 P	3/00	

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月3日(2011.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

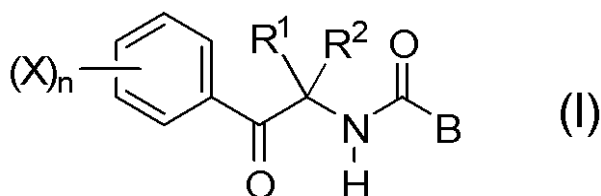
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a)式(1)：

【化 1】



[式中、B は Y で置換されてもよい複素環基であり；R¹ 及び R² は各々独立に C₁₋₁₂ アルキルであり；X はハロゲン、C₁₋₁₂ アルキル又は C₁₋₁₂ アルコキシであり；Y はハロゲン、C₁₋₁₂ アルキル又は C₁₋₁₂ ハロアルキルであり；n は 0 ~ 5 の整数である] で表されるカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b) グアニジン系化合物、アゾール系化合物、アニリノピリミジン系化合物、トリアゾロピリミジン系化合物、ストロビルリン系化合物、N-ハロゲノチオアルキル系化合物、ピリジナミン系化合物、重炭酸塩、無機硫黄系化合物、ジチオカーバメート系化合物、有機塩素系化合物、ジカルボキシイミド系化合物、アミン系化合物、フェニルピロール系化合物、ベンゾフェノン系化合物、ペペリジン系化合物、ジニトロベンゼン系化合物、モルフォリン系化合物、シアノアセトアミド系化合物、亜リン酸系化合物、有機リン系化合物、カルボキサミド系化合物、キノリン系化合物、銅系化合物、カーバメート系化合物、抗生物質、オキシムエーテル系化合物、4-キノリノール誘導体化合物、シアノメチレン系化合物、キナゾリノン系化合物及びベンゾイルピリジン系化合物から成る群から選択された少なくとも 1 種の殺菌性化合物の相乗有効量を含む殺菌性組成物。

【請求項 2】

B が Y で置換されてもよい 5 員又は 6 員複素環基である請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

B の複素環基が、窒素原子、硫黄原子及び酸素原子からなる群から選択された少なくとも 1 種の原子を 1 ~ 2 個含有するものである請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

B の複素環基がピリジル、チエニル又はピラゾリルである請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 5】

B が 3-トリフルオロメチル-2-ピリジル、3-メチル-2-チエニル又は 1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾリルである請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

式 (1) の化合物が、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル)フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル)フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル)フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド、N-[[4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[[4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-ペンチルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド及び N-[[4'-(2-ペンチルオキシ)-1,1-ジメチル]フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミドから成る群から選択された少なくとも 1 種の化合物である請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

(b) の殺菌性化合物が、トリアジメホン、トリフルミゾール、ペンコナゾール、フルシ

ラゾール、マイクロブタニル、シプロコナゾール、テブコナゾール、ヘキサコナゾール、N-プロピル-N-[2-(2,4,6-トリクロロフェノキシ)エチル]イミダゾール-1-カルボキサミド、メトコナゾール、エポキシコナゾール、プロチオコナゾール、トリアジメノール、ジフェノコナゾール、フルキンコナゾール、エニリコナゾール、イマザリル、ピテルタノール、エタコナゾール、プロピコナゾール、ファーコナゾールシス、テトラコナゾール、オキスポコナゾールフマル酸塩、フルトリアホール、フェンブコナゾール、ブロムコナゾール、ジニコナゾール、トリシクラゾール、プロベナゾール、シメコナゾール、ペント-4-エニル(2RS)-2-[フルフリル(イミダゾール-1-イルカルボニル)アミノ]ブチレート、イブコナゾール、イミベンコナゾール、シアゾファミド、ヒメキサゾール、アミスルブロム、フベリアゾール、メパニピリム、ピリメサニル、シプロジニル、フェリムゾン、5-クロロ-7-(4-メチルピペリジン-1-イル)-6-(2,4,6-トリフルオロフェニル)-[1,2,4]トリアゾロ[1,5-a]ピリミジン、アゾキシストロピン、クレソキシムメチル、メトミノストロピン、トリフロキシストロピン、ピコキシストロピン、(2E)-2-(メトキシイミノ)-2-[2-[(3E,5E,6E)-5-(メトキシイミノ)-4,6-ジメチル-2,8-ジオキサ-3,7-ジアザノナ-3,6-ジエン-1-イル]フェニル]-N-メチルアセタミド、ジモキシストロピン、ピラクロストロピン、フルオキサストロピン、メチル 3-メトキシ-2-[2-(((1-メチル-3-(4'-クロロフェニル)-2-プロペニリデン)アミノ)オキシ)-メチル]フェニル]プロペノエート、キャブタン、キャブタホル、フォルベット、フルアジナム、重炭酸ナトリウム、重炭酸カリウム、硫黄、多硫化石灰、硫酸亜鉛、マンゼブ、マンネブ、ジネブ、ポリカーバメート、メチラム、プロビネブ、チラム、クロロタロニル、フサライド、キントゼン、プロシミドン、イブロジオン、ピンクロゾリン、スピロキサミン、ジクロフルアニド、フルジオキサニル、フェンピクロニル、メトラフェノン、フェンプロピジン、メブチルジノキャップ、フェンプロピモルフ、トリデモルフ、ドデモルフ、ジメトモルフ、フルモルフ、シモキサニル、亜リン酸、亜リン酸ナトリウム、亜リン酸カリウム、亜リン酸カルシウム、ホセチルアルミニウム、トルクロホスメチル、S-ベンジル O, O-ジイソプロピルホスホロチオエート、O-エチル S, S-ジフェニルホスホロジチオエート、アルミニウムエチルヒドロゲンホスホネート、エジフェンホス、イプロベンホス、フルトラニル、3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド、メプロニル、ゾキサミド、チアジニル、カルボキシニ、オキシカルボキシニ、チフルザミド、フラメトピル、ペンチオピラド、ボスカリド、N-(3',4'-ジクロロ-5-フルオロピフェニル-2-イル)-3-(ジフルオロメチル)-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド、N-[2-[3-クロロ-5-(トリフルオロメチル)-2-ピリジル]エチル]- , , -トリフルオロ-o-トルアミド、3-(ジフロロメチル)-1-メチル-N-[(1RS,4SR,9RS)-1,2,3,4-テトラヒドロ-9-イソプロピル-1,4-メタノナフタレン-5-イル]ピラゾール-4-カルボキサミドと3-(ジフロロメチル)-1-メチル-N-[(1RS,4SR,9SR)-1,2,3,4-テトラヒドロ-9-イソプロピル-1,4-メタノナフタレン-5-イル]ピラゾール-4-カルボキサミドの混合物、シルチオファム、フェンヘキサミド、キノキシフェン、塩基性塩化銅、水酸化第二銅、塩基性硫酸銅、ボルドー液、有機銅、チオファネートメチル、ベノミル、カーベンダジム、チアベンダゾール、ピリベンカルブ、ジエトフェンカルブ、プロバモカルブ塩酸塩、イプロバリカルブ、メチル [S-(R,S)]-3-[(N-イソプロポキシカルボニルバリニル)アミノ]-3-(4-クロロフェニル)プロパノエート、ベンチアバリカルブ-イソプロピル、ポリオキシニ、バリダマイシン、カスガマイシン、イミノクタジン、ドディン、シフルフェナミド、2,3-ジメチル-6-t-ブチル-8-フルオロ-4-アセチルキノリン、2-(2-フルオロ-5-(トリフルオロメチル)フェニルチオ)-2-(3-(2-メトキシフェニル)チアゾリジン-2-リデン)アセトニトリル、プロキンアジド、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2,5-ジクロロ-3-トリフルオロメチルピリジン、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2-クロロ-3-トリフルオロメチル-5-メトキシピリジン、3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-プロモ-4-クロロ-2-メトキシピリジン及び3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-クロロ-2-メトキシ-4-メチルピリジンから成る群から選択された少なくとも1種である請求項1に記載の組成物。

【請求項8】

(b)の殺菌性化合物が、トリフルミゾール、マイクロブタニル、シプロコナゾール、テブコナゾール、ヘキサコナゾール、N-プロピル-N-[2-(2,4,6-トリクロロフェノキシ)エチル]イミダゾール-1-カルボキサミド、メトコナゾール、エボキシコナゾール、プロチオコナゾール、ジフェノコナゾール、テトラコナゾール、トリシクラゾール、オキシボコナゾールフマル酸塩、シアゾファミド、ヒメキサゾール、メバニピリム、ピリメサニル、シプロジニル、フェリムゾン、5-クロロ-7-(4-メチルピペリジン-1-イル)-6-(2,4,6-トリフルオロフェニル)-[1,2,4]トリアゾロ[1,5-a]ピリミジン、アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン、ジモキシストロビン、ピラクロストロビン、キャプタン、フォルベット、フルアジナム、重炭酸カリウム、硫黄、マンゼブ、クロロタロニル、プロシミドン、イプロジオン、スピロキサミン、フルジオキシニル、メトラフェノン、フェンプロピジン、メブチルジノキャップ、ジメトモルフ、フェンプロピモルフ、シモキサニル、亜リン酸カリウム、ホセチルアルミニウム、トルクロホスメチル、フルトラニル、フェンヘキサミド、キノキシフェン、塩基性塩化銅、チオファネートメチル、ピリベンカルブ、プロパモカルブ塩酸塩、ポリオキシシ、カスガマイシン、イミノクタジン、シフルフェナミド、2,3-ジメチル-6-t-ブチル-8-フルオロ-4-アセチルキノリン、2-(2-フルオロ-5-(トリフルオロメチル)フェニルチオ)-2-(3-(2-メトキシフェニル)チアゾリジン-2-リデン)アセトニトリル、プロキンアジド、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2,5-ジクロロ-3-トリフルオロメチルピリジン、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2-クロロ-3-トリフルオロメチル-5-メトキシピリジン、3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-プロモ-4-クロロ-2-メトキシピリジン及び3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-クロロ-2-メトキシ-4-メチルピリジンから成る群から選択された少なくとも1種である請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

(a)のカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b)の殺菌性化合物との混合重量比が1:70,000~70,000:1である請求項1に記載の組成物。

【請求項10】

請求項1に記載の組成物を、有害菌類又はそれが生育する場所に施用することを特徴とする有害菌類の防除方法。

【請求項11】

請求項1に記載の(a)式(1)で表されるカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b)の殺菌性化合物とを、有害菌類又はそれが生育する場所に施用することを特徴とする有害菌類の防除方法。